



50の
うん!

#18

My Favorite 華子★編

著:藍澤たすく

イラスト:かもめ遊羽

「らのけん」のひとつひとつの話?

三郷学園高校「ライトノベル研究部」

——通称「らのけん」。

それは世にあふれるラノベを読みまく
り、また自らも書きまくり、総合的にラ
ノベへの造詣を深めることを目的とした
志しの高い部活動……のはず、なんだ
けれど……。アレ? 実際フタを開けて
みたらなんか思ったよりゆるくない?

だがしかし! それこそが「らのけん」
の魅力! という感じで展開するまつた
り系日常部活「コメティイ」なのです!



緑川萌

ラノベと動物をこよなく愛する素直でまっすぐな女の子。その直情徑行さゆえに突っ走ってしまうことがあるのはご愛嬌。



白井華子

らのけん顧問教師……のはずが、見た目が一番幼いのため、部員からも「華ちゃん」と呼ばれ親しまれる癒し系な存在。覆面ラノベ作家一条れんとしても活躍中!



赤城操

クールレビューイーな眼鏡っ子。微に入り細を穿つ綿密な設定作りには、らのけん内でも定評がある。校正能力もプロ並み。

黒田美玖

愛情表現がセクハラチックなボーイッシュ女子。いつもそのターゲットにされる華子の苦労は、推して知るべし。何気にミステリラノベ好き。



紺野司

ラノベ作家としての華子、つまり一条れんを担当する編集者。AG文庫編集部に所属。天然な華子の創作活動を、陰に日向に支えてくれる心強い存在。

青山一斗

らのけんの黒一点。なんにでもすぐに首を突っ込みたがる好奇心旺盛な性格の持ち主。



白井咲耶

華子の弟であり、かつ男の娘。見た目は華子そっくりであるで双子のよう。
※ただしサイズは全然違う模様。



蔵内豪三郎

本名は蔵内・マリアンヌ・葉子。華子のデビュー作まんみーのイラストを担当するイラストレーター。華子にやや危険な方向の好意を抱いている御様子……？



「おーう！ 華子、いるー！？ 今度友達が舞台やるんだー、一緒に観に行こうぜー！」

とある放課後の、らのけん部室。

勢いよく開け放された部室のドアから、氷川英子^{ひかわえいこ}が入ってきた。彼女は華子の幼なじみの大親友であり、駆け出しの新人声優でもある。

「あ？」

英子と、部室の中に居たある人物とが同時に声をあげる。

「何しに来たのよ、このガサツ女。あんた、学校辞めたんでしょ？ ジヤ、ここに用はないはずよね？」 とりあえず部外者は帰つてもらえますかあー？ はい、しつしつしつー」

英子に辛辣^{しんらつ}な言葉を浴びせるのは、華子の弟……といつても男の娘^{おとここ}なので外見はまるつきり女子なのだが……の白井咲耶^{しらいさくや}だった。

「部外者はあんたも同じでしょーが！ この男^{おとこ}女^{おんな}！」

「なにをー！？」

「がるるるるるるるるー！」

言うが早いか二人は顔をつき合わせて、お互いに威嚇^{いかくこう}行動^{どうどう}を取り始めた。

のつけからなにやら不穏^{ふおん}な雰囲気だ。

「ちょ、ちょっと二人とも落ち着いて……」

「華子は黙つてて！」
「華子姉は黙つてて！」

二人の間に入ろうとした華子を、英子と咲耶が鋭く制した。

「だいたい、なんであなたがこんな所にいるのよ、男女！さつさと大学に戻りなさいよ！」
「あたしは今度の日曜に華子姉をショッピングに誘いに来ただけですう！」
「なあーに言つてんのよ！今度の日曜はあたしと一緒に舞台を観に行くって、華子はもう決まつてんの！」

「いつ決まつたのよ？！」

「今よ!!」

「がるるるるるる！」

また一人が顔をつき合わせて、それぞれ威嚇の声をあげる。

「ねえねえ、英子お姉さんと咲耶さんつてなんであんなに仲悪いの？」

萌がちよつと心配そつに、でも半分ぐらいは興味本位で華子に訊ねてきた。

「えつとですね、ひえちゃんとあたしは幼なじみでよく遊んでたんですけど、そこに咲耶も加わることが多かつたんですよ。それでひえちゃん、あーゆー性格だから、咲耶の才も

「二人ともいい大人なんだからいい加減仲良くしてくれればいいんですけどね……」

「なんか言つた!?」

「ふええええ、な、なんにも言つてないですうー！」

英子と咲耶の二人に睨まれて、華子は慌ててソファの陰に身を隠した。

「だいたいあたしの方が華子とのつき合いも長いし、親友なんだからね！」

「ふふふ。『親友』と『血縁』じゃ、はなつから勝負にならないでしょ？ こつちは血の濃さ

が違うんだから、血の濃さが」

咲耶の余裕ぶつた態度に、英子はあからさまにカチンと来た顔をする。

「ふ、ふん。血縁だからって、華子のこと本当に知つていてるかどうかは判らないでしょ？ たとえばあんた知つてる？ 華子が小さい頃肌身離さず持つていたクマのぬいぐるみの……」

「熊五郎でしょ？ もちろん知つてるわよ。だってあの子が一緒じゃないと華子姉、夜寝られなかつたもんね！ なくした時なんか泣きながら一緒に探してあげたこともあるもんね！」

「なつ？」

突然昔の話を持ち出された華子は恥ずかしさに思わず頬を朱に染めた。

「へー、華ちゃん、くまごろーちゃんと一緒にないと寝られなかつたんでもちゅかー、かつわ
いーでもちゅねー♪」

「昔の話です！ だ、誰だつてあるでしよう？！ 子供の頃は！」

今までこの事態に無関心 そうな態度で文庫本を読んでいた美玖が、突然ニヤニヤしながら華
子の頭を撫でてきた。対する華子は「ムキー！」といった表情で両手をばたばたさせている。
「はいはい、わかつたわかつた！。じゃあ、今度はあたしが華ちゃんのくまごろーちゃんに
なつてあげるからねー♪」

「ちょ、ちょっと黒田さん、離れてくださいー！」

ナチュラルにセクハラに移行しようとする美玖から、華子は慌てて離脱する。

そしてそんなことは一切構わず、英子と咲耶のバトルはさらに白熱の度を増していく。

「それじや、華子姉の一番の好物つて知つてる？ ガサツ女さん？」

「勿論よー」

英子はどんと胸を張る。

「華子の大好物は四条屋の大福餅よね？ 小六の夏休みなんかそればっかり食べてて10キロぐ
らい太つて2学期迎えたもんね！ 丸々と肥えきつたまるい華子……あれはクラス中でも大
事件だつたわー！」

「あ、あわわわわ……」

突然、過去の黒歴史を暴露されて硬直してしまった華子。

「へー、華ちゃん10キロも太つたんだーすごいねー」

「む、昔の話です！ そ、それに今はもう標準体重ですしだ！」

感心（？）する一斗に華子はムキになつて抗弁する。

そんなことに頓着する様子もなく、英子と咲耶の言い争いはエスカレートする一方だった。

「……じゃあ、これは知つてる？ 華子の初恋の相手！」

「むぐつ……そ、それは……」

言葉に詰まる咲耶の様子を見て、英子は満足そうな笑みを浮かべる。

「なになに？ もしかして知らないの？ 知らないで『血の濃さ』がどーとか言つてたの？
ふふつ、笑わせてくれるじゃない。所詮あたしと華子の絆と、あんたのそれとじや比べ物に
ならないつてことよ！ 判つた！」

「くつ……じゃ、じゃあ、あんたは知つてるつて言うの？」

「勿論よー」

唇を噛んで悔しがる咲耶に、英子は勝ち誇った顔で続けた。

「華子の初恋の相手はねー、あたし達が小二の頃アニメ放送してた『スターマインド・クルセ
イダーズ』のピポット様よー！」

「まさかの二次元!?」

「驚愕する咲耶をよそに、英子は朗々とその先を続ける。

「んで、小三の頃は『サマーセット・タイム』のケン様でしょ、小四の頃は『アンドロメダ・ラブソディ』のシュレッド様だったわよね。ねえ、華子？ 合ってるでしょ？ どうよ、参った？ あたしの方が華子のこと、よく知ってるんだもんね、愛してるんだもんね！」

「あ、あたしの方が絶対華子姉のこと愛してるもんね！ そ、そうだ！ 華子姉は小六までおねしょしてたんだよ！ これはさすがにあんたも知らなかつたでしょ？ このガサツ女！」

「なん、だと……？」

それは知らなかつた、と判りやすく顔に浮かべて唇を囁む英子。

そして。

「……がるるるるつ！」

また振り出しに戻つてしまつた。

これはどうにも埒が明きそうにない。

「く、こうなつたら華子本人に訊くのが一番だわ！」

「そうよ！ あたしとこのガサツ女とどつちが好きなの、華子姉！」

目を血走らせながら華子に詰め寄る英子と咲耶。
らのけん部室にしばしの静寂が訪れる。

「……らいです……」

「え？ なに、華子？」

「ちゃんと言つてくれないと聞こえないよ、華子姉！」

さらに華子に詰め寄る英子と咲耶。

「どつちも嫌いだつて言つたんですー!!」

華子はぱんつとテーブルを叩いて立ち上がつた。

その瞳には静かだが、確固たる怒りの炎が湛えられている。

「なんですか！ さつきから聞いてれば人のプライベートを勝手にべらべらべら喋つて！ そんなデリカシーのない人たちはあたし大つ嫌いです！ 日曜日の舞台もショッピングもどつちとも行きません！ ひえちゃんも咲耶も大つ嫌いです！ 判つたらとつとと出てつてくださいー!!」

言うが早いか、英子と咲耶は華子の怒りパワーによつてあつという間に部室の外に押し出されてしまつた。

続いてガチャンと無情な施錠音がドアから響いてくる。

どうやら華子はガンとして開けるつもりはないようだ。

英子と咲耶はしばし呆然としたまま部室前に佇んでいた。

「……ねえ、知つてる？ ガサツ女？」

「……なによ、男女？」

「華子姉が一度本気で怒ると、なかなか機嫌が治らないってこと……」「勿論、知ってるわよ……あの調子だと1週間は『きいてくれそうにないわね……』

「そうね……」

「やっぱそうよね……」

沈黙する一人。

「とりあえず四条屋の大福餅でも買ってきますか……」

「名案ね、ガサツ女……あたしもそれ、割り勘で買わせてもらうわ……」

英子と咲耶はとぼとぼとした足取りでらのけん部室をあとにしたのだった……。

つづく

●「らのけん！」シリーズ掲載号一覧

★2014年

GA文庫マガジン7月24日配信号	・らのけん！	1
GA文庫マガジン9月合併配信号	・らのけん！	2
GA文庫マガジン10月27日配信号	・らのけん！	3
GA文庫マガジン11月27日配信号	・らのけん！	4
GA文庫マガジン12月25日配信号	・らのけん！	5

★2015年

GA文庫マガジン1月22日配信号	・らのけん！	6	はじめての発売日編
GA文庫マガジン2月26日配信号	・らのけん！	7	かんこれ、始めました編
GA文庫マガジン3月26日配信号	・らのけん！	8	MISAO STRIKE BACK!!編
GA文庫マガジン4月24日配信号	・らのけん！	9	はじめてのごあいさつ編
GA文庫マガジン5月28日配信号	・らのけん！	10	その薔薇の名は……編
GA文庫マガジン6月25日配信号	・らのけん！	11	咲耶、襲来！編
GA文庫マガジン7月23日配信号	・らのけん！		ライトノベルが出来るまで編

G A文庫マガジン8月21日配信号..らのけん!
G A文庫マガジン9月18日配信号..らのけん!
G A文庫マガジン10月22日配信号..らのけん!
G A文庫マガジン11月12日配信号..らのけん!
G A文庫マガジン11月26日配信号..らのけん!

17 16 15 14 13

もつとも冴えた3つのお題編
華子、風邪をひく編
はじめての対談編
華子の一番幸せな日編
敏腕編集・紺野司の一番長い日編